

研 修 機 関	特別養護老人ホーム 長寿園
研 修 期 間	平成18年10月1日～10月31日
所 属 ・ 氏 名	珠洲市立宝立小学校 作田 律子

## I 研修目的

- ・ 高齢者福祉施設でいろいろな業務を体験し、職員や入居者などの多くの人と関わり合う中で、視野を広げ、人間性や社会性を磨き、教師としての資質向上を図る。
- ・ 入居者及び利用者が幸せに安心して過ごせるように努力している企業としての理念や組織の体制およびそのための具体的な方法を学び、学校での児童理解や接し方に生かす。
- ・ 高齢者福祉についての見識を深め、今後の教育活動に役立てる。

## II 研修内容

### 1 入居者の生活援助

#### ① 介護全般の補助

- ア 移動介助・・・お風呂場への誘導  
ベッドから車椅子へ（車椅子からベッドへ）の移乗
- イ 食事介助・・・湯茶配り、エプロン等の準備、食事の配膳、下膳  
食事介助、口腔ケア
- ウ 入浴介助・・・衣服の着脱介助、ドライヤーでの整髪、水分補給  
爪切り、髭剃り
- エ 排泄介助・・・トイレへの誘導

#### ② コミュニケーション

話し相手、レクリエーション、余暇支援

#### ③ 機能訓練

機能訓練補助

#### ④ 作業

洗濯物たたみと仕分け、シーツ交換など

### 2 デイサービスの援助

#### ① 介護全般の補助

- ア 移動介助・・・トイレへの誘導、お風呂場への誘導
- イ 食事介助・・・湯茶配り、食事の配膳、下膳、食事介助
- ウ 入浴介助・・・ドライヤーでの整髪、水分補給

#### ② コミュニケーション

話し相手、余暇支援

#### ③ レクリエーション

レクリエーション補助

#### ④ 作業

洗濯物たたみ、施設の掃除

### Ⅲ 研修成果

#### 1 きめ細かな対応

入居者・利用者（以下入居者等）の介護度は様々である。ほとんど自分のできる方から食事も自分ではできない方まで一人ひとり違っておられる。対応の仕方も当然違ってくる。そこでまず、健康面ではケアチェック・水分チェック・食事量チェック・排泄チェック・生活記録など正確に記録をされ引き継ぎが行われていく。その結果に応じていろいろな処置がなされていた。また、入浴の時やおむつ交換時には体に異常はないか確認されていた。大事な方をお預かりしているのだから当然だが、けがや病気にならないように細心の注意を払っておられると感じた。また、その方に合わせ、食事もきざみ食やミキサー食などがあったり、お茶も飲み込みやすいようにとろみをつけたりと工夫があった。

デイサービスにおいても同じように一人ひとりの記録があり、介護計画も立てられ、実行されていた。食事前の健口体操や午後のレクリエーションはもちろん楽しく過ごすためでもあるが、少しでも現状を維持するようにとお一人お一人まず測定され、その方にあった計画が立てられ、実施・評価をされて次の課題を設定されるというきめ細かい対応にも驚いた。デイサービスにまた来たいと思われるように、利用者の希望に添えるようなレクリエーションを考え、言葉遣いや態度にも充分気を使っておられる姿勢にも感心した。

#### 2 学習

長寿園の中に機能訓練室がある。指先を使う道具は職員が手作りされた物である。午後になると機能訓練指導員が機能訓練室に入居者をつれてこられ、その方に合った機能訓練を行っておられる。わたしも少しお手伝いしていると、車椅子で上体が折れまがっている方が一生懸命滑車を引っ張っておられた。そのときは背筋が伸びて、真剣な顔をされていた。やはり、機能訓練は大切だなあと思った。また、何より自分で体のことを考えられて訓練されているということに感動した。「がんばられたね。」と声をかけると、とてもよい笑顔をされ、認められることはいくつになられてもうれしいことなのだと改めて感じた。

また、デイサービスでは一人ひとりの作品や写真・言葉などがファイルされている。利用者は、年齢と共にだんだん衰えていくばかりかと失礼ながら思っていた私だが、デイサービスに通っているうちにだんだん塗り絵が上手になっていかれた例を教えていただき驚いた。人との触れ合いの中で、人と関わりがもてるようになられた方、機能訓練のおかげで車椅子から少し伝って歩けるようになられた方などのお話を聞き、人間は生涯を通じて学習だなと思った。

#### 3 コミュニケーションの大切さ

学校でも児童や保護者と信頼関係が成立していないと学級経営はうまくいかない。同じ事が高齢者福祉施設でも言えるなと思った。職員の方は忙しいときでも笑顔で対応され、入居者等のみなさんとコミュニケーションをされて信頼関係を築いた上で介助をされていた。そうすると介助がスムーズに行くことを実感した。まずは、挨拶と笑顔からと心がけた。

#### 4 職員の協力体制

職員の勤務体制は、早番・普通番・遅番・準夜勤・深夜勤と分かれており、その都度次の勤務職員への引き継ぎが綿密に行われていた。一人ひとりの記録の他に申し送りノートがあり、読めば入居者の様子がわかるようになっていた。その他には、朝・夕のミーティングやケース会議などがあり、たくさんの職員が交代で勤務されるのでいつだれが見ても分かるように共通理解の場が設定されていた。また、ふだんからこんな場合どうするかといったことを話し合われている場面を多く見かけたし、「ひやり・はっと・事故等報告書」があるとそれをどう対応していけばよいのかみんなで考え合っておられた。当初から職員の方はとても仲がいいなと感じていたのだが、こういう協力体制があるからこそ職員も安心して介護ができるのだなと思った。

#### 5 地域社会との連携

長寿園へはたくさんのボランティアの方たちが訪問にいらした。歌声クラブ・習字クラブ・あすなる会・クラシックバレエ教室・みすず民謡会・小学生といったグループである。入居者のみなさんはそれらをとても楽しみにしておられる。地域の方たちの協力や連携があるからこそ、楽しく生活できるのだなと感じた。

### IV 今後の課題

この研修では、自分の仕事をきちんと果たし、笑顔で明るく接しておられる職員の姿に感心した。そして、入居者等の安全を守ろうとする職員の意識やその対策について学校現場でも生かせるように努力していきたいと思った。また、不慣れな業務の中、温かい声かけをたくさんしていただき学ぶ側の気持ちを思い出し、励ましや認めてもらえる言葉の大切さを痛感した。

学校では当然のこととして、子どもたちを中心にすえ子どもたちの成長や喜びを追求していかなければいけない。私も積極的に子どもたちに働きかけ、子どもたち一人ひとりの思いを見つめながら信頼関係を築き、保護者や地域の人たちの声にもしっかりと耳を傾けて信頼を得るようにしていきたいと思った。そして、教育のプロ集団として他の教職員と連携を深めて学校組織をより一層意識して、また新たな気持ちで業務に励んでいきたいと思った。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった石川県教育委員会、学校を離れ研修に出ることを支えてくださった多くの皆様に感謝いたします。そして、何よりお忙しい中、たくさんの事を教えてくださった長寿園の職員の皆様、やさしく接してくださった入居者及び利用者の皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。